

さわやか通信

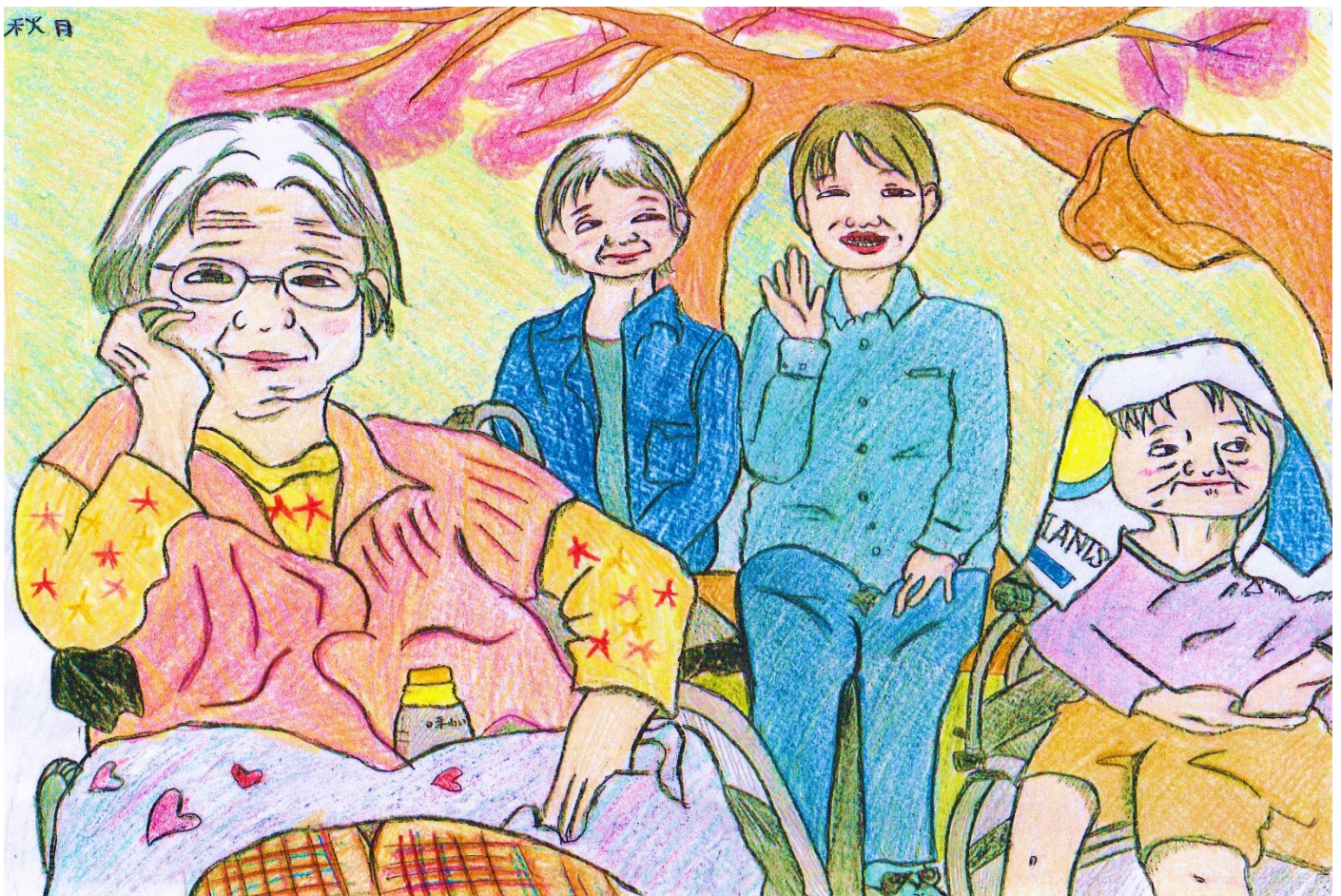
平成31年 4月1日発行
No.19

あるがままに 楽しく やりたうと

さわやかテラス春日
入居者 Aさん（九十八歳） 作

株式会社ウェルフェアネット

会社設立	平成12年12月
代表者	代表取締役 平山正明
事業内容	福祉事業全般 筑紫地区を中心に グループホーム 小規模多機能型居宅 介護施設の運営を主たる事業としている
基本理念	住み慣れた地域で安心して健やかに暮ら せる老後をお手伝いします
基本方針	利用者おひとりおひとり、その人らしい 生活に日々「寄りそう」



絵・児玉千佳子

新年度をむかえて



さわやかテラス・
さわやか憩いの家
代表 平山 正明

「あの日 あの時」さわやかテラスを開設し、入居者の方を迎えた二十年前、「スケジュールを決めず」「鍵をかけない」地域に根差した普通の場所にと考え、「平成」の時代をさわやかテラス・さわやか憩いの家の入居者・利用者・ご家族・そして地域の方の理解があり、これまで歩んでくることができました。

この広報誌が皆様の手元に届く頃には、新しい元号が発表されているかと思えます。不安ばかりが先に立ち、社会保障制度も不安定で、世界から日本が辿る道を眺められているというのが、本当だと感じています。「世界が近く感じる時代」が到来していると言われますが、世界各国から日本の隅々を観光客が訪れる姿もありながら、就労する国としても注目を集め、この介護業界にも数年前から外国人労働者を受け入れながら、人材不足を補ってきています。また、介護士の卵を受け入れる福祉の学校でも、大半は外国人留学生が学んでいると聞きます。これからの社会、そうした方達とも付き合いながら、互いの文化や風習、風土も理解し

合うことが求められます。

さて、さわやかテラスが間もなく開設して、二十年を迎えようとしています。これまで、十年目には地域の方を招いて「記念講演会」を開催し、現在の日本経済大学をお借りして、七百名の地域の方や関係者の方にお越しいただきました。

また、十五周年には、『鍵をかけないケア』の本を出版することができ、現在でも、反響をいただいています。この本を出版したことで、家訓にある「あるがままに 楽しく ゆったりと」を具現化するためのスタッフ教育に用いて、「よみとき」を続け、ケアの根拠や「人」を考える努力をすることに繋がっています。

そして、今年は、二十周年のプロジェクトを企画し、入居者・利用者・ご家族の皆様・地域の方へ感謝を還元した内容を考えています。

様々な課題が山積みではありますが、これまでのケアを「継承」することや、スタッフひとりひとりが生き生きと働くことができ、新時代の幕開けを前向きに捉え、時代と共に受け入れながら、今後邁進したいと考えています。これからも、よろしくお願いいたします。



さわやか憩いの家二日市の十年



平成二十一年六月に「さわやか憩いの家二日市」を開設し、十年になります。改修型の事業所で、ご近所の方の自宅を改修したので、間取りも佇まいもそのままです。当初は、登録人数も十二名と少なく、一日通える人数も六名程度でした。最初は利用者の方も一名で、小規模多機能住宅介護施設というものが、どのようなサービス形態なのか周知がなく、我々も手探りで、困った記憶が残ります。その中でも、「自宅暮らし続けるために」「ご本人のための」という事は思い続けてきました。現在は、登録人数も十五名。一日の通いが八名になり、沢山の地域の方や専門職の皆さんと繋がりが、そのことに「感謝」しながらの日々です。これからも、「誰のための」という事を考えながら、出会いを大切にスタッフ一同邁進いたします。

今後ともよろしくお願い致します。

(さわやか憩いの家二日市責任者 井上 正壽)

ちよつと深い話

さわやかテラス大野城にAさんという方がおられた。いつも笑顔でみんなに優しく私たちに元気をくださる、テラスには欠かせない存在だった。

そんなAさんが、昨年末に黄疸が見られ、病院を受診、悪性腫瘍が見つかった。黄疸の症状を軽減する処置のために一月三日に入院されたが、「このまま住み慣れた場所での自分の好きなように最期を過ごしてほしい」とご家族の思いもあり、十五日にさわやかテラスに戻ってこられた。リビングを見渡しながら「また仕事させてね」「帰れてよかった」と涙を浮かべて言われた表情は今でも忘れられない。

二十七日に亡くなられたが、それまでの間Aさんは食事や水分をほとんど摂らず、頑なに断られた。点滴についても「せんでいい」と強く主張されていた。ご家族やスタッフは少しでも飲んで欲しい、食べて欲しいと思っていたが、ご本人は「ご飯は食べとらないけど皆の顔が見たい」と以前の様にリビングで過ごされたり、娘さんと居室で過ごされたりしていた。それでもいつも笑顔で皆に優しく接してくださる姿はいつものAさんだった。私たちに出来ることは寄りそい、見守る事だけだった。死期を悟ったAさんの強い思いを感じ、多くを学ばせて頂いた。

今までにもひとりを経験してきたが、ひとつとして同じみとりはない。そこにその方やご家族の生き方や思いを感じることが多い。ここで暮らす皆さんの「あるがまま」を受け入れ、最期まで生きることが支え続けていきたいと思う。

(さわやかテラス大野城 石丸 雄司)

研修報告

【韓国研修】

今年は十年勤務のスタッフ二名が十一月十五日から十八日の四日間、韓国研修に行かせていただきました。



清岩の特別養護老人ホーム、松坡老人総合福祉館の見学をさせて頂きました。研修では互いの施設での取り組みについて発表しました。私たちは新オレンジプラン、地域密着型の地域の中の施設について発表をしました。松坡老人総合福祉館の方の発表は、独居の方の支援についてでした。韓国は、超高速で高齢化が進んでおり、独居の方の割合も急激に増加している状況です。政府も介護サ―ビスの拡大と基本的インフラの構成などの政策を樹立しています。福祉館では独居の方を訪問するスタッフが多くいて、その方の生活の現状をしっかりと把握されていました。また、その方に合った支援をするために、事業形態までつくられていました。とても柔軟で長くご自宅で暮らす為のサ―ビスが発達していると感じました。



(さわやかテラス二市 古賀 伊織)

韓国での取り組みを学び、住み慣れた地域との関わりを大切に、まずはその方をよく知り、ご本人のできることを活かして、かなければと改めて思いました。

【ホスピス緩和ケア・ネットワーク福岡公開講演会 2018】



二月二日福岡国際会議場にて、あおばクリニック院長の伊藤大樹先生が座長を務める公開講演会で登壇の機会をいただきました。「地域で自分らしく暮らすために知っておきたいこと」人生最期の過ごし方・迎え方、どう考えますか」のテーマで、法律家の立場で弁護士篠木潔先生や葬儀社の立場で吉永光一郎さんと共に、私は介護職の立場で、小規模多機能型居宅介護施設で関わった在宅でのみとりにしてお話しさせていただきました。

人生の終末期・死が間近に迫ってくる時期に直面する、避けては通れないいくつもの課題、成年後見、遺言、葬儀、人生の最終段階における意思決定について、墓の問題、みとりの場の選択・・・さまざまな切り口でのお話。ご本人が残りの人生を心豊かに過ごすために日常の中で望まれることは何か、楽しいこと、好きなこと、やりたいことなどご本人の心が向かうことに焦点を当て、それを支えることが大事だと教えられるました。「幸福学」についても少し深く学んでみたいと思います。



(さわやかテラス春日・さわやか憩いの家春日)

統括責任者 平原 由香

【佐賀県社会福祉協議会講演会】



「鍵をかけないケア」の本を読み是非とも講演して欲しいと佐賀県社会福祉協議会のご招待を受け、二月六日に佐賀県老人福祉施設協議会の地域密着委員会四十名に統括執行役員の山城が講演を行いました。

十五年目を迎えるさわやかテラス・さわやか憩いの家の成り立ちから平山さんの今後を見通した考えや、入居者・利用者より教えてもらった「あるがままに 楽しく ゆつたり」との家訓が今の寄りそったケアに繋がっていること、スタッフのキャリアアップのために取り組んでいる事を本の内容を通して講演しました。講演を聞いた方に「スケジュールを決めているから時間に追われて余裕がないようになる。講演を聞き入居者に合わせて柔軟に取り組むことができることを学んだ。または是非とも見学してみたい。」との意見をいただきました。講演をすること、こうした意見を頂けることに感謝しながら、自分たちの取り組みについて改めて考えていきたいと思います。

(さわやかテラス春日責任者 長野 太一)



【災害時広域相互支援協定】



熊本地震から三年、約三十年続いた平成から新しい元号に変わります。平成を振り返ると、全国で様々な大規模災害がありました。被災からの教訓として

「備え」の重要性が高まり、今まで以上に自助・互助が大切と感じます。

そんな中、熊本の夢の架け橋グループと災害時相互支援協定を結び約二年。職員の交換研修(三日間を年に三回)や合同会議・防災訓練を通じて、被災時には認知症の方にも優しい支援を互いに供給できる関係になったと思います。現在は他事業所と相互支援協定を結べる様動いている所です。

(さわやか憩いの家春日責任者 光武 祐一郎)

【認知症サポーター養成講座】

春日市地域密着型サ―ビス部会の活動の一環として、学校での認知症サポーター養成講座に参加させていただきました。

去年十二月は、天神山小学校、一月には白水小学校、不登校児の支援をする、教育支援センターにも伺いました。

授業の一コマを使つての講座のため、内容は簡潔に、かつ分かりやすくおばあちゃんや子供役に扮して寸劇を行いました。アンケートにも、お年寄りが困っていたら優しく声をかけたなどの意見があり、興味をもって、話を聞いてくれているのを感じます。子どもたちにとっても良い機会になっていると思います。



(さわやか憩いの家春日 津和崎 智美)

【セラピーティックケア スキルアップ研修】

二月十三日セラピューティックのスキルアップ研修を受けました。

日頃は、お年寄りに合わせて寝たまやソファア―に座ったまま手や足の施術をする事が多く、椅子に座り直していただいて肩や背中の施術をする事が減っていました。お年寄りも「わあ、気持ち良かった」と喜んで下さり、手や足だけをケアして満足されていたが、今回の研修で改めて自分が受けると、肩や背中をさすられるだけで全身が暖かくなり、安心できました。

二日市の事業所では、みとったお年寄りにすぐセラピューティックを行ってみると、少し浮腫みがあったのが、ケアを行う事で、すっきりした体になられたという話を聞きました。先生はその話を聞き「亡くなられた方に施術をしたのは初めて聞きました。綺麗な体でご家族に会えるのはとても良いですね」と仰っていました。セラピューティックをするだけで体が暖かくなり、安心され、浮腫みも和らぐ・・・色んな効果がありとても良いケアだと改めて感じる事が出来ました。今回の研修で聞いたエピソードや考え方も取り入れながら、今後利用者の方へのケアに役立てていきたいと思います。

(さわやか憩いの家大野城中央 川嶋 文子)



—あの日・あの時—

私の母は認知症です。「あら！前と違う」と思った頃より十四年程経ちました。最初の頃は、前の母と違うのは年齢のせいかと思ったりもしていました。月日が経つにつれ何かを聞いても同調するだけで意見らしい事を言わなくなりしました。好きな事や趣味も段々と遠巻きにする様に。置いていたものが移動したり無くなったり、タンスの中に食べ物が入っていたり探し物をよくするようになり「あれが無い、これが無くなった」と言う様になりました。その頃からデイサービスやショートステイを利用していました。今は施設に入居して五年になります。しかし、元気な頃の母を忘れられずに認められなくて、とても悲しく虚しい時を過ごしたのを思い出します。

そんな時に、近くに住む友達が介護施設と一緒に見学に行かないかと伺った所がここさわやか憩いの家春日でした。勤めるようになり四年目になります。介護の仕事は初めてでした。一応でも母の介護の経験が生かせる事があるのではとの思いがありました。最初は利用者の方々と話をする事と顔を覚えるので精一杯、また、他のスタッフの方が何をして

いるのかも全く理解できず、見える所も見えない状態でした。視野が狭いところは今もなかなか成長しません。

憩いの家に「おはよう」ごいま

す」と笑顔で来られる利用者の笑顔に励まされ「ありがとう」の言葉に力をもらい、一緒に驚いたり大笑いをしたり。三年の間に最年長となりました。失敗をしてもクヨクヨせず「あー年のせいだ」と良い言い訳を使い、若いスタッフに助けてもらいながら毎日を送っています。

何かの本で「自分以外は皆師匠」という意味の言葉を見ました。長い人生を乗り越えてこられた利用者の方々と若いスタッフとの中で、教えてもらう事が多い日々です。通いで来られた方や訪問でお会いする方々が一度でも多く笑顔が見られる関わりをしたいと思っています。

施設にいる母は、今では意思疎通も難しくなりましたが、それに悲観的にならず、笑顔で前向きに一緒に時間を過ごしていきたいと思っています。

(さわやか憩いの家春日 福田 初美)

「毎年恒例」全スタッフの親睦会

十二月、二日間に分け毎年労をねぎらう親睦会があります。会う機会が少ないスタッフ同士、互いにリスベクトする時間を過ごして、次の年へと向かいま



編集後記

もうすぐ時代が変わるといことで、歴史の一大イベントとして話題になっている。

大正、昭和、平成と生きてこられたお年寄りからすれば、四つ目の元号になる。皆さん、元号が変わることにどんな思いでおられるのだろうか。私たちが希望と不安を胸に思っているように昭和から平成に変わる時、お年寄りたちも同じことを考えていたのだろうか。

「あなた、まだこれからね。」とさわやかテラスで働き始めて六年経った私に、ある入居者さんが言った言葉だ。「あなたここにきて何年になるの？」と聞かれ答えたのだが、そんな答えが返ってくると思わず驚いた。「ここに座っているとね、色々見えるのよ。十人十色っていうでしょ。一人も同じ人はいないのよ。マジメな人もいれば、ちよつと抜けてる人もいてね。だから大丈夫よ。」と笑って話された。なるほどそれほども私たちがは見られていたのかと改めて感じた出来事だった。私は昭和、平成と二つの元号を生きてきた。十人十色という言葉を考えてながら私が今まで出会ってきた人や出来事を思い返している。次のステップではどんな人たちが関り合っていくのだろうか。きつと十人十色で、また楽しいこともあれば辛いこともあるのだろう。でも、そんなときに、私に言葉をくださった入居者さんのように、「まだまだこれから、何があっても大丈夫！」と思えるように年を重ねていきたい。やっぱり長く生きておられる先輩方の言葉は偉大だ。私の気持ちに寄りそって下さっている。

(さわやかテラス春日 菅原 加織)

広報担当(田中 順子・石丸 雄司・菅原 加織)

山本 明佳・川嶋 文子)

ウェルフェアネット 31 年度の活動

・社外研修・セミナー参加

日本ホスピス・在宅ケア研究会
デンマーク研修・韓国研修
日本セラピューティック・ケア
全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会
九州地区での各種研修
他事業所との合同研修

・各団体との関わり

福岡県高齢者グループホーム協議会
筑紫地区介護保険事業者連絡協議会
福岡県介護福祉士会
ホスピス緩和ケアネットワーク福岡
筑紫地区小規模連絡協議会
大牟田市認知症ライフサポート研究会

・地域との関わり

各地域の自治会・育成会・老人会等
地域の保育園・小学校
民生委員・福祉委員
各地区の地域包括支援センター
筑紫野市介護を考える家族の会

・相談会や講座開催に積極的に協力

認知症サポーター養成講座
社外実習生の受け入れ
公民館活動との連携
災害広域相互協定の推進
20 周年記念プロジェクト

筑紫野市

グループホーム

さわやかテラス二日市

〒818-0042 筑紫野市立明寺533-1
TEL 092-918-0045 FAX 092-918-0255

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家二日市

〒818-0042 筑紫野市立明寺534-3
TEL 092-918-3830 FAX 092-918-0255

大野城市

グループホーム

さわやかテラス大野城

〒816-0971 大野城市牛頸4丁目5-29
TEL 092-513-7511 FAX 092-513-7512

グループホーム

さわやかテラス大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL 092-501-0352 FAX 092-501-0323

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家大野城中央

〒816-0942 大野城市中央2丁目5番19号
TEL 092-501-0322 FAX 092-501-0323

春日市

グループホーム

さわやかテラス春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL 092-588-3307 FAX 092-588-3308

小規模多機能型居宅介護施設

さわやか憩いの家春日

〒816-0863 春日市須玖南1丁目91番地
TEL 092-588-3531 FAX 092-588-3308

株式会社ウェルフェアネット本社

〒816-0864 春日市須玖北4丁目10番405
TEL 092-582-0757 FAX 092-582-0847



検索してね！

検索 さわやかテラス